

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成30年3月8日 (2018.3.8)

【公表番号】特表2016-518931(P2016-518931A)
 【公表日】平成28年6月30日 (2016.6.30)
 【年通号数】公開・登録公報2016-039
 【出願番号】特願2016-511751(P2016-511751)
 【国際特許分類】

A 6 1 F 2/958 (2013.01)

A 6 1 M 25/10 (2013.01)

【F I】

A 6 1 F 2/958

A 6 1 M 25/10 5 1 0

【手続補正書】
 【提出日】平成30年1月26日 (2018.1.26)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

遠位部分、近位部分、および前記遠位部分と前記近位部分の間の中央部分からなる膨張可能なバルーン (1 4) を、その上に有するカテーテル (1 0) と；

前記膨張可能なバルーンの前記中央部分の上に固定された拡張可能なスcafford と；
を備える、スcafford 供給装置であって、

前記中央部分は全体にわたって同じ半径であり、

前記膨張可能なバルーンの遠位部分は、前記スcafford の遠位端に隣接する放射状のテーパ遷移を画成し、前記膨張可能なバルーンの近位部分は、前記スcafford の前記近位端に隣接する放射状のテーパ遷移を画成し、

前記スcafford は、遠位テーパエッジ (4 0) および近位テーパエッジ (4 2) を画成する、
スcafford 供給装置。

【請求項 2】
 前記カテーテルは脈管内カテーテルを備える、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】
 前記拡張可能なスcafford は、50 μm よりも大きい壁厚を有する、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 4】
 前記拡張可能なスcafford は、収縮した状態の前記膨張可能なバルーン上に圧着できるように構成される、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 5】
 前記膨張可能なバルーンの前記遠位部分及び前記近位部分はそれぞれ、前記スcafford の壁厚によるスcafford の内径と外径の差に適応するために、前記膨張可能なバルーンにおいてステップを画成する、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 6】
 前記ステップは、滑らかなバルーンスcafford 遷移を提示するためにテーパ様式で前記スcafford に当接する、請求項 5 に記載の装置。